



Title	保育と貧困：道内の地域間格差に着目して
Author(s)	鹿嶋, 桃子; Kashima, Momoko; 上山, 浩次郎 他
Citation	子ども発達臨床研究, 19, 133-146
Issue Date	2024-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/rcccd.19.133
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/91886
Type	departmental bulletin paper
File Information	024-1882-1707-19.pdf



保育と貧困

— 道内の地域間格差に着目して —

鹿嶋桃子*・上山浩次郎**

Childcare and Poverty: Analyzing Regional Disparities in Hokkaido, Japan

Momoko KASHIMA, Kojiro UHEYAMA

問題と目的

北海道・札幌市では2016年から2017年に「第1回子どもの生活実態調査」、続く2021年から2022年に「北海道・札幌市子どもの生活実態調査」を実施し、乳幼児とその保護者を取りまく生活と所得階層との関連を明らかにしてきた。その際、地域間格差をみる指標は、札幌市と北海道（その他の市町村）とする方法がとられてきた。

他方、「第1回調査」後の2019年6月に改正された「子どもの貧困対策の推進に関する法律」において、都道府県のみならず市町村に対しても子どもの貧困対策についての計画を定めるように努めると明記されている点を踏まえるならば、札幌と他の市町村を一括りにして比較するだけでなく、他の市町村間にみられる地域間格差について検討するがあると考ええる。

そこで本稿は道内の子どもの貧困と地域間格差の関連について、以下の項目から確認する。

まず、小西（2016）や川田（2022）を参考に、世帯の経済状況が子どもの生活に反映されやすい「保護者の抑うつ傾向」に焦点を当て分析する。さらに、乳幼児にとって発達の主導的路線でもあ

る遊び（ヴィゴツキー、1989）について検討するために、よくする遊び内容に地域間格差があるのかを説明していく。あわせて、子どもと保護者の生活に保育が与える影響は広範囲にわたる（小西、2016）ことを視野に入れ、子どもの貧困と保育の関連について検討する。なかでも保育が世帯の社会経済的状況に与える影響については、「かくれ保育料」と呼ばれる低所得層も一律に徴収される保育料以外の費用（田中ほか編、2018）と、「幼児教育・保育の無償化」政策が家計に与える影響に着目して検討する。

「第1回調査」後の2019年10月に幼児教育・保育の無償化が施行され、幼稚園・保育所・認定こども園などを利用する3歳から5歳児クラスの子どもたちと住民税非課税世帯の0歳から2歳児クラスまでの子どもたちが無償化の対象となった。本稿は、幼児教育・保育の無償化が北海道内の乳幼児の貧困と地域間格差に与えた効果を分析する初の論考となる。

以上、本稿ではここ数年での保育を取り巻く政策の変化を含む「保育」が、北海道内の乳幼児の貧困に与える影響と地域間格差について論じる。

*名寄市立大学保健福祉学部

**北海道大学大学院教育学研究院

方 法

(1) 調査対象者

「北海道・札幌市子どもの生活実態調査」に回答した北海道内で2歳児と5歳児を育児中の保護者を対象とした。詳細は第2部川田・岩谷論文を参照されたい。

(2) 調査内容

① 年齢

札幌市・北海道において回答者が育児中の子どもの年齢として用いた指標「2歳」と「5歳」の2つを用いる。

② 地域

回答者の居住地域については、「札幌市」(以下、札幌市)、「人口10万人以上の市町村」(以下、「10万人以上」)、「人口10万人未満の市町村」(以下、「10万人未満」)の3つに分類した。

「北海道総合計画(令和3年度～令和7年度)」において、人口規模が一定以上で行政や経済、医療、教育、文化などの面で高度な都市機能をもつ札幌市、函館市、旭川市、釧路市、帯広市及び北見市を「中核都市」としている。また、2010年時点での中核都市の人口が10万人以上であることも考慮して、上記分類とした。

各地域の内訳は、「10万人以上」江別市、苫小牧市、旭川市、北見市、帯広市、釧路市、「10万人未満」岩見沢市、三笠市、滝川市、深川市、千歳市、蘭越町、余市町、岩内町、登別市、浦河町、新ひだか町、北斗市、八雲町、江差町、名寄市、富良野市、留萌市、稚内市、網走市、遠軽町、清水町、幕別町、根室市、中標津町である。

札幌市については北海道内で人口100万人以上を擁する唯一の自治体かつ政令指定都市であること、ならびに「第1回調査」との比較検討の観点を考慮し、「10万人以上」には含めず独立変数として採用した。

③ 抑うつ

こころの健康チェック K6 日本語版を用いた。「神経過敏に感じる」、「絶望的だと感じる」、「そ

わそわ、落ち着かなく感じる」、「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れない感じがする」、「何をするのも骨折りだと感じる」、「自分は価値のない人間だと感じる」について「全くない」(0点)から「いつもある」(4点)の5件法で尋ねた。10点以上の場合はいつや不安障害などの可能性が高い可能性がある。

④ 遊び

子どもがよくする遊びについて、お散歩、公園の遊具で遊ぶ(すべり台など)、砂場の砂や泥を使った遊び、鬼ごっこやおいかけっこ、なわとびやゴムとび、虫や小さな生き物をとる、草花、木の枝や棒、石などの自然物で遊ぶ、ソリ遊び(冬季)、水遊び(夏季)、ゲームや動画の視聴、積み木やブロックやパズル、人形遊びやままごと、ミニカーなどおもちゃの遊び、折り紙や材料を使った製作遊び、お絵かきやぬりえ、絵本や図鑑を読む、そのほかよくする遊びとし、「よくする」「ときどきする」「まったくしない」の3件法で回答を求めた。

⑤ 社会的孤立

1) 「日頃、立ち話をするような付き合いのある人はいますか」という質問に対して、①他の子どもの親 ②職場の人 ③近所の人 ④それ以外の友人・知人 ⑤その他 ⑥そのような人はいない、から多重回答で尋ねた。

2) 用事がある時や用事ができたときに、お子さん(きょうだいを含む)を半日程度預かってくれる方はいますか、という質問に対して、①同居の家族 ②同居していない家族・親せき ③職場の人 ④近所の人 ⑤他の子どもの親 ⑥それ以外の友人・知人 ⑦保育園等の一時預かりや延長保育から、多重回答で尋ねた。

3) もしも、あなたや配偶者が不慮の事故で入院するなどで、お子さん(きょうだいを含む)の面倒をみられなくなったときに、代わって子どもの面倒をみってくれる人はいますかという質問に対して、①お子さんの祖父母 ②お子さんのおじやおば ③その他の親せき ④職場の人 ⑤近所の人 ⑥その他の友人・知人 ⑦面倒を

みてくれる人はいない、から主な人を1人たずねた。

⑥ 経済状況

1) 隠れ保育料

いわゆる「隠れ保育料」(田中ほか編、再掲)が家計に与える影響を調べるために、現在通っている幼稚園・保育所・認定こども園等で、保育料以外にかかる費用の負担感について、「負担感はない」から「負担感がある」の5件法で尋ねた。

2) 2019年10月から実施された幼児教育・保育の無償化が家計に与える影響を調べるために、「かなりゆとりができた」から「わからない」までの5件法で尋ねた。

(3) 分析方法

変数と地域間格差との関連について分析するためクロス集計と χ^2 乗検定を行った。分析には統計ソフト jamovi を用いた。

結 果

1. 所得階層について

地域と所得階層に関連がみられるのかを分析した結果、表1に示すように χ^2 乗検定で有意な差がみられた(χ^2 乗値=113.8、自由度=10、 $p=0.000$)。全体的に人口が多いほど所得が高い傾向にある。札幌で「上位所得層」20.3%と最も高く、次に高い割合を示す10万人以上の12.6%よりも7ポイント以上高い。他方、全体的に人口が少ないほど所得は低い傾向にあり、「10万人未満」で「低所得層Ⅰ」14.2%、「低所得層Ⅱ」23.0%が最も高かった。ただし年齢別にみると、2歳では「10万人以上」における「低所得層Ⅰ」13.2%が最も高い割合となった。2歳、5歳の共通点として、どの地域においても「低所得層Ⅰ」と「低所得層Ⅱ」を合わせて30%を超えていることを確認できる。

表1 所得階層

(上段：人、下段：%)

		低所得層Ⅰ	低所得層Ⅱ	中間所得層Ⅰ	中間所得層Ⅱ	上位所得層	無回答	合計
2歳	札幌	139	241	264	392	284	78	1398
		9.9	17.2	18.9	28.0	20.3	5.6	100.0
	10万人以上	60	85	109	122	42	36	454
		13.2	18.7	24.0	26.9	9.3	7.9	100.0
	10万人未満	21	48	48	74	21	17	229
		9.2	21.0	21.0	32.3	9.2	7.4	100.0
	合計	220	374	421	588	347	131	2081
		10.6	18.0	20.2	28.3	16.7	6.3	100.0
5歳	札幌	116	172	179	326	230	108	1131
		10.3	15.2	15.8	28.8	20.3	9.5	100.0
	10万人以上	78	107	123	166	93	49	616
		12.7	17.4	20.0	26.9	15.1	8.0	100.0
	10万人未満	170	262	190	245	132	121	1120
		15.2	23.4	17.0	21.9	11.8	10.8	100.0
	合計	364	541	492	737	455	278	2867
		12.7	18.9	17.2	25.7	15.9	9.7	100.0
合計	札幌	255	413	443	718	514	186	2529
		10.1	16.3	17.5	28.4	20.3	7.4	100.0
	10万人以上	138	192	232	288	135	85	1070
		12.9	17.9	21.7	26.9	12.6	7.9	100.0
	10万人未満	191	310	238	319	153	138	1349
		14.2	23.0	17.6	23.6	11.3	10.2	100.0
	合計	584	915	913	1325	802	409	4948
		11.8	18.5	18.5	26.8	16.2	8.3	100.0

2歳児 $\chi^2=49.206$ 自由度=10 $p=0.000$
 5歳児 $\chi^2=76.308$ 自由度=10 $p=0.000$
 $\chi^2=113.8$ 自由度=10 $p=0.000$

2. 世帯構成について

世帯構成と地域間格差について有意な差はみられなかった（表 2、表 3）。年齢別にみると 2 歳、5 歳ともに「父＋母＋子」が最も高い割合となり 2 歳 91.0%、5 歳 86.6%となった。「父＋母＋子＋祖父母」は人口規模が少ないほど多い傾向を示し、たとえば 5 歳では札幌 2.9%に対して「10 万人未満」4.7%となった。

3. 心の健康について

抑うつとの関連について、不安障害や抑うつの可能性が高いと考えられる合計得点「10 点以上」の割合を確認する（表 4）。全体的に有意な差はみられなかったものの、人口が少ない地域の方が

「10 点以上」の割合が高い傾向がみられ、札幌 9.4%に対して「10 万人未満」10.7%となった。年齢別にみると、2 歳児は「札幌」9.6%、5 歳児は「10 万人未満」が 11.5%と最も高かった。

4. 社会的孤立について

(1) 日頃、立ち話をするような付き合いのある人はいるか

日頃、立ち話をするような付き合いのある人はいるかについて「いない」と回答した割合に有意差はみられなかったが、2 歳と 5 歳で共通して「10 万人以上」が最も高く、「2 歳」18.4%「5 歳」8.7%となった（表 5、表 6）。また「第 1 回調査」と共通して、5 歳よりも 2 歳で「いない」と回答

表 2 世帯構成（2 歳）

（上段：人、下段：%）

	父 ＋ 母 ＋ 子	子 ＋ 父 ＋ 母 ＋	母 ＋ 子	祖 父 母 ＋ 子 ＋	父 ＋ 子	祖 父 母 ＋ 子 ＋	そ の 他	無 回 答	全 体
札幌	1281	32	53	17	1	0	10	4	1398
	91.6	2.3	3.8	1.2	0.1	0.0	0.7	0.3	100.0
10 万人以上	402	16	19	7	1	1	5	3	454
	88.5	3.5	4.2	1.5	0.2	0.2	1.1	0.7	100.0
10 万人未満	210	11	6	0	0	0	1	1	229
	91.7	4.8	2.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	100.0
全体	1893	59	78	24	2	1	16	8	2081
	91.0	2.8	3.7	1.2	0.1	0.0	0.8	0.4	100.0

有意差なし

表 3 世帯構成（5 歳）

（上段：人、下段：%）

	父 ＋ 母 ＋ 子	子 ＋ 父 ＋ 母 ＋	母 ＋ 子	母 ＋ 子 ＋ 祖 父 母	父 ＋ 子	父 ＋ 子 ＋ 祖 父 母	そ の 他	無 回 答	全 体
札幌	1005	33	56	19	3	2	3	10	1131
	88.9	2.9	5.0	1.7	0.3	0.2	0.3	0.9	100.0
10 万人以上	536	22	40	7	1	0	2	8	616
	87.0	3.6	6.5	1.1	0.2	0.0	0.3	1.3	100.0
10 万人未満	943	53	63	22	6	2	12	19	1120
	84.2	4.7	5.6	2.0	0.5	0.2	1.1	1.7	100.0
全体	2484	108	159	48	10	4	17	37	2867
	86.6	3.8	5.5	1.7	0.3	0.1	0.6	1.3	100.0

有意差なし

表4 うつ尺度

(上段：人、下段：%)

		0～9 点	10 点以上	合計	
2 歳児	地域	札幌	1249	133	1382
			90.4	9.6	100
		10 万人以上	393	41	434
			90.6	9.4	100.0
		310 万人未満	210	16	226
		92.9	7.1	100.0	
	合計	1852	190	2042	
		90.7	9.3	100.0	
5 歳児	地域	札幌	1017	101	1118
			91.0	9.0	100.0
		10 万人以上	530	62	592
			89.5	10.5	100.0
		10 万人未満	941	122	1063
		88.5	11.5	100.0	
	合計	2488	285	2773	
		89.7	10.3	100.0	
合計	地域	1 札幌	2266	234	2500
			90.6	9.4	100.0
		2 10 万人以上	923	103	1026
			90.0	10.0	100.0
		3 10 万人未満	1151	138	1289
		89.3	10.7	100.0	
	合計	4340	475	4815	
		90.1	9.9	100.0	

有意差なし

する割合が高かった。

次に立ち話をするような付き合いのある人の内訳について尋ねた結果を年齢別に確認する。2歳では、他の子どもの親について「あてはまる」と回答した割合は高い順に「10 万人未満」53.9%、札幌 47.7%、「10 万人以上」41.9%となった (χ^2 乗値=9.38、自由度=2、 $p=0.009$)。5歳については、職場の人、近所の人、それ以外の友人・知人と回答（「あてはまる」）した割合にそれぞれ有意差がみられた。5歳で職場の人と回答した人の割合は高い順に、「10 万人未満」59.4%、「10 万人以上」53.2%、札幌 52.3%となった (χ^2 乗値=12.8、自由度=2、 $p=0.002$)。5歳で近所の人と回答したのは高い順に札幌 41.2%、「10 万人以上」40.6%、「10 万人未満」36.0%となった ($\chi^2=7.12$ 、自由度=2、 $p=0.028$)。それ以外の友人・知人と

回答したのは高い順に、「10 万人未満」50.0%、「10 万人以上」47.5%、札幌 44.4%となった (χ^2 乗値=7.07、自由度=2、 $p=0.029$)。

(2) 用事がある時や用事ができたときに、お子さん（きょうだいを含む）を半日程度預かってくれる方の有無

用事がある時や用事ができたときに子どもを半日程度預かってくれるような人の有無を尋ねた結果（表7、表8）、「預かってくれるようはない（あてはまる）」との回答は、2歳では有意差がみられず、高い順に札幌 13.6%、「10 万人未満」12.2%、「10 万人以上」11.5%となった。5歳では有意差がみられ、高い順に「10 万人以上」11.5%、札幌 10.0%、「10 万人未満」7.6%となった (χ^2 乗値=8.06、自由度=2、 $p=0.018$)。

表5 立ち話をするような人(2歳)

(上段:人、下段:%)

	他の子どもの親	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	いない
札幌	665	663	446	584	230
	47.7	47.6	32.0	41.9	16.5
10万人以上	189	203	144	193	83
	41.9	45.0	31.9	42.8	18.4
10万人未満	123	99	91	90	32
	53.9	43.4	39.9	39.5	14.0
全体	977	965	681	867	345
	47.1	46.6	32.9	41.8	16.6

「他の子どもの親」($\chi^2=9.38$ 自由度=2 $p=0.009$)、他は有意差なし
 注)「あてはまる」と回答した割合

表6 立ち話をするような人(5歳)

(上段:人、下段:%)

	他の子どもの親	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	いない
札幌	811	591	466	502	76
	71.8	52.3	41.2	44.4	6.7
10万人以上	424	324	247	289	53
	69.6	53.2	40.6	47.5	8.7
10万人未満	789	652	395	549	81
	71.9	59.4	36.0	50.0	7.4
全体	2024	1567	1108	1340	210
	71.4	55.3	39.1	47.2	7.4

「職場の人」($\chi^2=12.8$ 自由度=2 $p=0.002$)、「近所の人」($\chi^2=7.12$ 自由度=2 $p=0.028$)、「それ以外の友人・知人」($\chi^2=7.07$ 自由度=2 $p=0.029$)、他は有意差なし
 注)「あてはまる」と回答した割合

「預かってくれる人がいる」という回答の内訳は、2歳で全体に高い順に「同居していない家族・親戚」65.9%、「同居の家族」42.9%、「保育園等の一時預かりや延長保育」22.1%、5歳で「同居していない家族・親戚」67.1%、「同居の家族」43.2%、「保育園等の一時預かりや延長保育」26.1%と、地域による有意差はみられなかった。

2歳では「近所の人(あてはまる)」と回答した割合有意差がみられ、高い順に「10万人未満」1.7%、札幌1.2%、「10万人以上」0.0%となった(χ^2 乗値=6.47、自由度=1、 $p=0.039$)。

5歳では、「職場の人」と回答した割合は高い順に、「10万人未満」1.3%、「10万人以上」0.6%、

札幌0.1%となり、有意差がみられた(χ^2 乗値=12.7、自由度=2、 $p=0.002$)。「他の子どもの親」と回答した割合は高い順に札幌9.4%、「10万人未満」9.0%、「10万人以上」4.4%となり、同じく有意差がみられた(χ^2 乗値=15、自由度=2、 $p<.001$)。

(3) 不慮の事故や入院などの際に、子どもを見てくれる人

不慮の事故や入院などの際に子どもを見てくれる人が「いない」という回答について、有意な差はみられなかった(表9、表10)。また、地域にかかわらず2歳、5歳ともに10%以上となった。

表7 用事のときに子どもを預かってくれる人（2歳）

(上段：人、下段：%)

	同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	他の子どもの親	それ以外の友人・知人	一時預かりや延長保育	いない
札幌	577	936	4	17	56	30	299	190
	41.3	67.0	0.3	1.2	4.0	2.1	21.4	13.6
10万人以上	211	296	1	0	8	9	105	52
	46.5	65.2	0.2	0.0	1.8	2.0	23.1	11.5
10万人未満	104	140	2	4	9	7	55	28
	45.4	61.1	0.9	1.7	3.9	3.1	24.0	12.2
全体	892	1372	7	21	73	46	459	270
	42.9	65.9	0.3	1.0	3.5	2.2	22.1	13.0

「近所の人」($\chi^2=6.47$ 自由度=2 $p=0.039$)、他は有意差なし
 注)「あてはまる」と回答した割合

表8 用事のときに子どもを預かってくれる人（5歳）

(上段：人、下段：%)

	同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	他の子どもの親	それ以外の友人・知人	一時預かりや延長保育	いない
札幌	497	758	1	20	106	38	316	113
	43.9	67.0	0.1	1.8	9.4	3.4	27.9	10.0
10万人以上	266	405	4	4	27	25	151	71
	43.2	65.7	0.6	0.6	4.4	4.1	24.5	11.5
10万人未満	476	762	15	17	101	48	281	85
	42.5	68.0	1.3	1.5	9.0	4.3	25.1	7.6
全体	1239	1925	20	41	234	111	748	269
	43.2	67.1	0.7	1.4	8.2	3.9	26.1	9.4

「職場の人」($\chi^2=12.7$ 自由度=2 $p=0.002$)、「他の子どもの親」($\chi^2=15$ 自由度=2 $p<.001$)、「いない」($\chi^2=8.06$ 自由度=2 $p=0.018$)、他は有意差なし
 注)「あてはまる」と回答した割合

年齢別にみると2歳では高い順に「10万人未満」15.7%、札幌14.2%、「10万人以上」12.3%となった。5歳については高い順に「10万人以上」13.3%、札幌12.1%、「10万人未満」11.7%となった。

子どもを見てくれる人の内訳については、「祖父母」が2歳71.7%、5歳69.6%と、最も高かった。これは次に高い割合を示した「お子さんのおじやおば」2歳2.6%、5歳2.3%台と比較しても非常に高い結果となった。

(4) 子育ての悩みを相談する相手

子育ての悩みを相談する相手がいない（「あて

はまる」と回答した割合に有意差はみられなかったが(表11、表12)、2歳では高い順に札幌2.7%、「10万人以上」2.6%、「10万人未満」0.9%、5歳では高い順に、「10万人未満」2.4%、「10万人以上」2.3%、札幌1.8%となった。

相談する相手の内訳について、年齢別にみると、2歳では全体に高い順に、「同居の家族」75.1%、「同居していない家族・親せき」71.3%、「それ以外の友人・知人」51.9%となった。5歳では高い順に、「同居の家族」71.2%、「同居していない家族・親せき」68.1%、「それ以外の友人・知人」55.5%となった。

2歳では「地域の相談員・相談機関」と回答す

表9 自身や配偶者が不慮の事故で入院する場合の子どもの面倒をみてくれる人(2歳)

(上段:人、下段:%)

	お子さんの 祖父母	お子さんの おじや おば	その他の 親せき	職場の人	近所の人	その他の 友人・知 人	面倒をみ てくれる 人はいな い	無回答	全体
札幌	1012	34	10	1	1	1	199	140	1398
	72.4	2.4	0.7	0.1	0.1	0.1	14.2	10.0	100.0
10万人以上	320	15	1	0	1	1	56	60	454
	70.5	3.3	0.2	0.0	0.2	0.2	12.3	13.2	100.0
10万人未満	161	6	2	0	0	0	36	24	229
	70.3	2.6	0.9	0.0	0.0	0.0	15.7	10.5	100.0
全体	1493	55	13	1	2	2	291	224	2081
	71.7	2.6	0.6	0.0	0.1	0.1	14.0	10.8	100.0

有意差なし

注)「あてはまる」と回答した割合

表10 自身や配偶者が不慮の事故で入院する場合の子どもの面倒をみてくれる人(5歳)

(上段:人、下段:%)

	お子さんの 祖父母	お子さんの おじや おば	その他の 親せき	職場の人	近所の人	その他の 友人・知 人	面倒をみ てくれる 人はいな い	無回答	全体
札幌	803	24	13	1	0	5	137	148	1131
	71.0	2.1	1.1	0.1	0.0	0.4	12.1	13.1	100.0
10万人以上	419	17	6	0	0	1	82	91	616
	68.0	2.8	1.0	0.0	0.0	0.2	13.3	14.8	100.0
10万人未満	773	24	8	1	1	7	131	175	1120
	69.0	2.1	0.7	0.1	0.1	0.6	11.7	15.6	100.0
全体	1995	65	27	2	1	13	350	414	2867
	69.6	2.3	0.9	0.1	0.0	0.5	12.2	14.4	100.0

有意差なし

注)「あてはまる」と回答した割合

る人の割合に有意差がみられ(χ^2 乗値=22.5、自由度=2、 $p<.001$)、高い順に「10万人未満」11.8%、「10万人以上」4.8%、札幌4.3%となった。

2歳では5歳と比較して「SNSのみで交流がある人」と回答する割合が高い傾向にあった。具体的には2歳の札幌4.4%、「10万人以上」5.3%、「10万人未満」3.9%に対して、5歳は札幌2.6%、「10万人以上」2.8%、「10万人未満」3.4%となった。

5歳で「近所の人」と回答する割合は高い順に、札幌8.8%、「10万人以上」6.2%、「10万人未満」

5.4%となり、有意差もみられた(χ^2 乗値=10.8、自由度=2、 $p=0.005$)。2歳で「近所の人」と回答する割合には高い順に、「10万人未満」7.0%、札幌6.5%、「10万人以上」4.8%となったが有意差はみられなかった。

5. よくする遊び

子どもがよくする遊びについて尋ねたところ、全体的に札幌や「10万人以上」の地域の方が外で遊ぶ傾向が高かった(表13、表14)。たとえば、「公園の遊具」で「よくする」と回答した人の割

表 11 子育ての悩みを相談する相手（2歳）

（上段：人、下段：％）

	同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校（幼稚園や保育園）の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNS のみで交流がある人	いない
札幌	1041	976	374	91	722	517	60	77	61	38
	74.5	69.8	26.8	6.5	51.6	37.0	4.3	5.5	4.4	2.7
10万人以上	342	344	120	22	246	163	22	17	24	12
	75.3	75.8	26.4	4.8	54.2	35.9	4.8	3.7	5.3	2.6
10万人未満	179	163	60	16	112	79	27	16	9	2
	78.2	71.2	26.2	7.0	48.9	34.5	11.8	7.0	3.9	0.8
全体	1562	1483	554	129	1080	759	109	110	94	52
	75.1	71.3	26.6	6.2	51.9	36.5	5.2	5.3	4.5	2.5

「地域の相談員・相談機関」（ $\chi^2=22.5$ 自由度=2 $p<.001$ ）、他は有意差なし
 注）「あてはまる」と回答した割合

表 12 子育ての悩みを相談する相手（5歳）

（上段：人、下段：％）

	同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校（幼稚園や保育園）の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNS のみで交流がある人	いない
札幌	828	773	318	100	638	427	35	55	29	20
	73.2	68.3	28.1	8.8	56.4	37.8	3.1	4.9	2.6	1.8
10万人以上	430	430	201	38	346	262	26	31	17	14
	69.8	69.8	32.6	6.2	56.2	42.5	4.2	5.0	2.8	2.3
10万人未満	783	750	368	61	607	438	79	61	38	27
	69.9	67.0	32.9	5.4	54.2	39.1	7.1	5.4	3.4	2.4
全体	2041	1953	887	199	1591	1127	140	147	84	61
	71.2	68.1	30.9	6.9	55.5	39.3	4.9	5.1	2.9	2.1

「職場の人」（ $\chi^2=6.97$ 自由度=2 $p=0.031$ ）、「近所の人」（ $\chi^2=10.8$ 自由度=2 $p=0.005$ ）、「地域の相談員・相談機関」（ $\chi^2=19.7$ 自由度=2 $p<.001$ ）、他は有意差なし
 注）「あてはまる」と回答した割合

合を年齢別に確認すると、2歳で札幌 74.9%、「10万以上」57.5%、「10万人未満」52.0%、5歳で札幌 69%、「10万以上」73.9%、「10万人未満」66.2%となった。その他、5歳で「10万人以上」においてよく遊ぶと回答した割合のうち、「公園の遊具」73.9%、「砂場」49.4%はともに最も高い結果となり、有意差もみられた（「公園の遊具」 χ^2 乗値=15、自由度=4、 $p=0.005$ 、「砂場」 χ^2 乗値=45.6、自由度=4、 $p<.001$ ）。室内での遊びについて「ゲームや動画の視聴」を確認すると、2歳では札幌 60.9%、5歳では「人口10万人未

満」78.3%が最も高かった。「絵本や図鑑を読む」についてみると、2歳では「10万人未満」74.7%、5歳では「札幌」60.3%が最も高かった。

6. 保育政策による家計への影響

(1) 隠れ保育料による経済的負担感

教材費やバス通園費用など、子どもの保育にかかる保育料以外の「隠れ保育料」（田中ほか編、再掲）による経済的負担感と地域間格差について分析したところ、2歳、5歳ともに有意差はみられなかった（表15、表16）。年齢別にみると、2

表13 よくする遊び(2歳)

(上段:人、下段:%)

	お散歩 (ぶらぶ らと歩 きまわ るなど)	公園の 遊具で 遊ぶ(す べり台 など)	砂場な どでの 砂や泥 を使った遊び	鬼ごっ こやい かけっ こ	なわと びやゴ ムとび	虫や小 さな生 き物を とる	草花、 木の枝 や石の 自然物 で遊ぶ	ソリ遊び (冬季)	水遊び (夏季)	ゲーム や動画 の視聴	つみ木 やプロ ックや パズル	人形遊 びやま まごと	ミニカ ーなど おもち の遊び	折り紙 や材料 を使った製作 遊び	お絵か きやぬ りえ	絵本や 図鑑を 読む
札幌	971 69.8	1042 74.9	710 51.0	781 56.3	91 6.6	311 22.4	885 63.7	572 41.6	804 57.8	846 60.9	1030 74.0	1012 72.6	1010 72.6	527 38.1	791 56.9	1016 75.1
10万人 以上	327 72.3	260 57.5	157 35.0	194 43.5	16 3.6	68 15.2	263 58.2	147 33.3	186 41.3	228 50.8	323 71.6	266 59.0	300 66.5	119 26.6	252 56.3	308 72.6
10万人 未満	174 76.3	119 52.0	82 36.4	111 48.7	7 3.1	28 12.5	125 55.3	90 40.0	91 40.3	117 51.5	168 74.0	148 65.2	154 68.8	63 28.0	137 60.4	165 76.0
全体	1472 71.1	1421 68.6	949 45.9	1086 52.7	114 5.5	407 19.8	1273 61.6	809 39.6	1081 52.3	1191 57.7	1521 73.5	1426 68.9	1464 70.9	709 34.5	1180 57.1	1489 74.7

「公園」($\chi^2=110$ 自由度=4 $p<.001$)、「砂場」($\chi^2=117$ 自由度=4 $p<.001$)、「鬼ごっこやいかけっこ」($\chi^2=32.8$ 自由度=4 $p<.001$)、「なわとび」($\chi^2=42.7$ 自由度=4 $p<.001$)、「虫や小さな生き物」($\chi^2=72.7$ 自由度=4 $p<.001$)、「木の枝」($\chi^2=29.2$ 自由度=4 $p<.001$)、「ソリ遊び」($\chi^2=44.3$ 自由度=4 $p<.001$)、「水遊び」($\chi^2=113$ 自由度=4 $p<.001$)、「ゲームや動画」($\chi^2=25.8$ 自由度=4 $p<.001$)、「人形遊びやままごと」($\chi^2=42.9$ 自由度=4 $p<.001$)、「折り紙」($\chi^2=95.5$ 自由度=4 $p<.001$)、他は有意差なし

表14 よくする遊び(5歳)

(上段:人、下段:%)

	お散歩 (ぶらぶ らと歩 きまわ るなど)	公園の 遊具で 遊ぶ(す べり台 など)	砂場な どでの 砂や泥 を使った遊び	鬼ごっ こやい かけっ こ	なわと びやゴ ムとび	虫や小 さな生 き物を とる	草花、 木の枝 や石の 自然物 で遊ぶ	ソリ遊び (冬季)	水遊び (夏季)	ゲーム や動画 の視聴	つみ木 やプロ ックや パズル	人形遊 びやま まごと	ミニカ ーなど おもち の遊び	折り紙 や材料 を使った製作 遊び	お絵か きやぬ りえ	絵本や 図鑑を 読む
札幌	453 40.6	777 69.0	381 34.1	783 69.8	450 40.1	420 37.6	632 56.5	701 62.4	713 63.5	803 71.4	635 56.6	632 56.7	500 45.0	754 67.0	768 68.6	649 60.3
10万人 以上	318 52.6	450 73.9	301 49.4	441 72.9	229 38.0	228 37.6	364 59.9	398 65.7	376 62.0	439 72.2	372 61.3	349 57.7	296 48.8	397 65.3	415 68.8	337 58.7
10万人 未満	552 50.1	731 66.2	440 40.1	776 70.5	387 35.5	368 33.7	625 56.7	698 63.3	700 63.5	863 78.3	625 56.6	665 60.5	580 52.9	695 63.0	750 68.2	594 56.3
全体	1323 46.9	1958 69.0	1122 39.7	2000 70.7	1066 37.9	1016 36.1	1621 57.3	1797 63.5	1789 63.2	2105 74.3	1632 57.6	1646 58.4	1376 48.9	1846 65.1	1933 68.5	1580 58.4

「お散歩」($\chi^2=39.4$ 自由度=4 $p<.001$)、「公園の遊具」($\chi^2=15$ 自由度=4 $p=0.005$)、「砂場」($\chi^2=45.6$ 自由度=4 $p<.001$)、「ゲームや動画」($\chi^2=16.4$ 自由度=4 $p=0.003$)、「人形遊びやままごと」($\chi^2=13.7$ 自由度=4 $p=0.008$)、「ミニカー」($\chi^2=16.5$ 自由度=4 $p=0.002$)、他は有意差なし

歳では人口規模が少なくなるほど「負担感がある」と回答する割合が高い傾向にあり、順に「10万人未満」9.8%、「10万人以上」8.3%、札幌7.3%となった。5歳では高い順に「10万人未満」7.3%、「札幌」6.7%、「10万人以上」6.1%となった。

(2) 幼児教育・保育の無償化によってもたらされた経済的ゆとり(5歳のみ)

2019年10月から実施された幼児教育・保育の無償化によってもたらされた経済的なゆとりについて尋ねたところ、表17に示すように有意差がみられた(χ^2 乗値=27.5、自由度=8、 $p<.001$)。

「かなりゆとりができた」と回答した人の割合は高い順に、「10万人以上」23.2%、「10万人未満」21.2%、札幌16.5%となった。札幌で「かなりゆ

表 15 子どもが現在通っている幼稚園・保育所・認定こども園で保育料以外の費用負担感（2歳）

(上段：人、下段：%)

	負担感はない	あまり負担感はない	どちらともいえない	やや負担感がある	負担感がある	全体
札幌	357	253	124	174	72	980
	36.4	25.8	12.7	17.8	7.3	100.0
10万人以上	121	59	41	34	23	278
	43.5	21.2	14.7	12.2	8.3	100.0
10万人未満	37	38	13	23	12	123
	30.1	30.9	10.6	18.7	9.8	100.0
全体	515	350	178	231	107	1381
	37.3	25.3	12.9	16.7	7.7	100.0

有意差なし

表 16 子どもが現在通っている幼稚園・保育所・認定こども園で保育料以外の費用負担感（5歳）

(上段：人、下段：%)

	負担感はない	あまり負担感はない	どちらともいえない	やや負担感がある	負担感がある	全体
札幌	322	325	160	188	71	1066
	30.2	30.5	15.0	17.6	6.7	100.0
10万人以上	200	168	86	101	36	591
	33.8	28.4	14.6	17.1	6.1	100.0
10万人未満	359	299	148	181	78	1065
	33.7	28.1	13.9	17.0	7.3	100.0
全体	881	792	394	470	185	2722
	32.4	29.1	14.5	17.3	6.8	100.0

有意差なし

表 17 【5歳児対象】2019年10月から実施された幼児教育・保育の無償化での経済的ゆとり

(上段：人、下段：%)

	かなりゆとりができた	多少ゆとりができた	どちらともいえない	ゆとりはできていない	わからない	全体
札幌	157	391	221	165	19	953
	16.5	41.0	23.2	17.3	2.0	100.0
10万人以上	129	187	117	99	23	555
	23.2	33.7	21.1	17.8	4.1	100.0
10万人未満	213	359	196	196	39	1003
	21.2	35.8	19.5	19.5	3.9	100.0
全体	499	937	534	460	81	2511
	19.9	37.3	21.3	18.3	3.2	100.0

 $\chi^2=27.5$ 自由度=8 $p<.001$

とりができた」と回答した人の割合は、「10万人以上」、「10万人未満」よりも4.7ポイント以上減となった。

「ゆとりはできていない」と回答した割合は高

い順に、「10万人未満」19.5%、「10万人以上」17.8%、札幌17.3%となった。全体的に人口が少ない地域の方で「ゆとりはできていない」と回答する人の割合は高くなる傾向にあった。

考 察

本稿では北海道内における乳幼児の貧困と保育について、札幌・「10万人以上」・「10万人未満」に分類した地域及び年齢との関連を分析した。その結果を以下に整理する。

まず所得階層において有意な地域間格差がみられた(χ^2 乗値 113.781、自由度 10、 $p=0.000$)。全体的に上位所得階層が占める割合は札幌が最も高く、次いで「10万人以上」、「10万人未満」となった。「低所得層Ⅰ」が占める割合は反対に「10万人未満」が最も高く、札幌が最も低かった。ただし、年齢別にみると、2歳では「10万人以上」における「低所得層Ⅰ」が最も高い割合を示すなど、全体的な傾向とは異なる様相がみられた。おそらく北海道調査での回収率が、2歳児 27.1%と、5歳児 77.6%より 50%以上低い結果となったことが影響していると考えられる。

厚生労働省が7月4日に公表した「国民生活基礎調査」によると、子どもの貧困率は、最新の2021年では11.5%となっている。これを本調査の結果と比較すると、全体では「10万人以上」と「10万人未満」、年齢別にみると2歳児と5歳児の「10万人以上」、5歳児の「10万人未満」の地域で「低所得層Ⅰ」が占める割合は、全国の子どもの貧困率を上回っている。

世帯構成については有意差が見られなかったが、両親と祖父母同居の世帯(「父+母+祖父母」)については人口が少ない地域ほど多くなる傾向がみられた。全体的に「10万人未満」の地域では、「低所得層Ⅰ」、「低所得層Ⅱ」がより多く居住しているが、そうした世帯は祖父母からの子育て支援を受けやすい可能性がある。

次に乳幼児を育てる保護者の環境に目を転じる。

健康状態について抑うつを指標に分析した結果からは、有意な差はみられなかったものの、全体的に「低所得層Ⅰ」が多い「10万人未満」で抑うつ傾向の人の割合が高い可能性がある。

社会的孤立については、「立ち話をするような付き合いのある人はいるか」について「いない」

と回答した割合は、「10万人未満」が最も高く2歳は18.4%、5歳で8.7%となった(有意差なし)。次の「用事がある時や用事ができたときに子どもを半日程度預かってくれるような人はいるか」を尋ねる質問に「いない」と回答した割合は、特に5歳では札幌や「10万人以上」すなわち「上位所得層」の多い地域で「いない」と回答する割合が、「低所得層Ⅰ」の多い「10万人未満」よりも有意に高かった(χ^2 乗値=8.06 自由度=2 $p=0.018$)。同様に、2歳で「不慮の事故や入院などの際に子どもを見てくれる人はいるか」に「いない」という回答も、札幌や「10万人未満」の「上位所得層」が多い地域で「低所得層Ⅰ」の多い「10万人以上」よりも高い傾向がみられた。

なお、北海道十勝圏で0歳から5歳の乳幼児を育てる保護者に「同居の家族以外で子どもをみてくれる人の有無」について尋ねた同様の調査では、全体で「いる」65.3%、「いない」34.7%と、今回の調査結果よりも高い傾向がみられた(NPO法人子どもと文化のひろばぶれいおん・帯広大谷短期大学、2022)。

次に相談相手について考察する。子育ての悩みを相談する相手がいないという回答は、2歳の「10万人未満」で0.9%となったが、その他は年齢や地域にかかわらず2%程度存在していた。「低所得層Ⅰ」が多い地域で相談相手がいない人が一定の割合で存在しており、子どもの貧困と社会的孤立の関連が懸念される。

2023年12月22日に閣議決定された「こども大綱」では、「貧困の状況にあるこども・若者や子育て当事者が社会的孤立に陥ることのないよう、親の妊娠・出産期からの相談支援の充実や居場所づくりなど、生活の安定に資するための支援を進める。」など、支援が届きにくい家庭への配慮について明記している。本稿の結果からは、とりわけ幼稚園入学年齢に達しない「2歳児」において、「低所得層Ⅰ」が多い「10万人以上」の地域で育つ子どもの社会的孤立を解決するための施策の充実が特に必要と考える。具体的には保育施設が持つ社会的孤立を防ぐ機能を拡充するような

施策に加えて、保育施設が閉所している時間帯でもサポートを受けられるファミリーサポートセンター事業、乳児院や児童養護施設への短期・長期入所や緊急一時委託制度についても引き続き充実や周知を図る必要がある。

乳幼児の生活や成長の源泉となる遊びについては、2歳、5歳ともに札幌や「10万人以上」で外遊びをよくする傾向がみられた。ただし、札幌の2歳児が他の地域よりも外でよく遊ぶ割合が20ポイント以上高い理由は、調査対象の年齢が札幌と北海道で異なるためと考える（第2部川田・岩谷論文参照）。歩行や走る動きが確立した札幌調査の2歳児が、北海道調査の1歳半児よりも外での遊びを「よくする」のは、年齢による運動発達の違いを反映している可能性が高い。

絵本や図鑑をよく読むと回答する割合は、2歳「10万人以上」72.6%、5歳「10万人未満」56.3%と、ともに「所得階層Ⅰ」が最も多い地域が最も低かった。ただし、どの地域、年齢においても「よくする」が55%を超えていることから、絵本や図鑑を読む割合は所得階層や地域によらず一定程度の水準で保たれていると示唆される。

最後に、乳幼児の貧困と地域間格差を保育との関連から述べる。「隠れ保育料」（田中ほか編、再掲）による負担感があるという回答は、有意差はみられないものの2歳、5歳ともに「10万人未満」で最も多い結果となった。消費者物価指数（2023年11月の総合指数は2020年比で106.9）の上昇から考えると、今後とりわけ低所得者層のなかで「隠れ保育料」に対する負担感が増していくと示唆される。よって、特に「10万人未満」においては、「隠れ保育料」による経済的損失を補填するような施策があれば、乳幼児期の経済的格差の緩和に有効と考える。

2019年10月に実施された「幼児教育・保育の無償化」によってもたらされる経済的ゆとりについては、「かなりゆとりができた」、「ゆとりはで

きていない」への回答はともに人口が少ない地域の方が有意に高いという結果となった（ χ^2 乗値=27.5、自由度=8、 $p<.001$ ）。人口規模が少ない地域の方が「低所得層Ⅰ」の占める割合が高い傾向にあることや、幼児教育・保育無償化が実施される前の保育料は応能負担であったために、「低所得層Ⅰ」の保育料はすでに無料だった点を念頭におくと、幼児教育・保育無償化がもたらす経済的なゆとりの効果は総じて「低所得層Ⅰ」にとっても限定的であったと考えられよう。すなわち、「かなりゆとりができたか」と尋ねられれば、あてはまると感じる一方で、日々の暮らしぶりとしては「ゆとりはできていない」と感じるという拮抗する状況が浮かび上がる。

全体的に上位所得層の割合が高い札幌で「かなりゆとりができた」と回答する割合が最も低い結果となったのは、上位所得層からみた無償額の低さを反映している可能性がある。具体的にみると、平成31年4月以降の時点で札幌市における4歳児以上の保育料の応能負担額は最高が36,300円であり、3歳未満の74,610円と比較し半額以下であった。仮に3歳未満の保育料も無償にされたならば、より多くのゆとりを持てたという不満が反映されている可能性もある。加えて所得階層による支出の痛みの違いを反映していると考察する。

以上、北海道内の乳幼児の貧困と人口規模に応じた地域を関連づけた論考を行った本稿の結果から、全体で札幌よりも「10万人以上」、「10万人未満」の地域で所得が有意に低いという地域間経済格差やそれに付随する養育環境の違いとしての乳幼児期における貧困の一端が明らかとなった。

保育は貧困に起因する乳幼児期における養育環境の格差を解決する力を持っている。ゆえに今後、本稿で述べたような保育施策を通して、子どもの最善の利益を優先するという保育所保育の目的が体現され、乳幼児が育つ環境における地域間格差を解決する力となることが期待される¹。

¹ 日本総研（2022）が実施した「人口減少地域等における保育の提供に関する調査研究」によれば、2015年以降に保育所の統廃合をした割合が一部過疎地域等を含む市町村で相対的に高くなっている。翻って北海道内では都市機能を持つ旭

参考文献

- 北海道「北海道総合計画（令和3年度～令和7年度）」
- 川田学（2022）乳幼児期の生活、子育て、保育 松本伊智朗（編）子どもと家族の貧困—学術調査からみえてきたこと 法律文化社 pp.127-149
- 小西祐馬（2016）乳幼児期の貧困と保育—保育所の可能性を考える— 秋田喜代美・小西祐馬・菅原ますみ（編）貧困と保育—社会と福祉につなぎ、希望をつむぐ— かもがわ出版 pp.26-52
- 久保勝裕（2010）北海道における地域圏との関係からみた市町村合併に関する研究 日本検知器学会計画系論文集 第75巻 第647号 pp.110-128
- 日本総合研究所（2022）令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 人口減少地域等における保育の提供に関する調査研究報告書「人口減少地域等における保育の提供に関する調査研究（https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_13358.pdf 2023年12月27日最終閲覧）」
- NPO 法人子どもと文化のひろば ぶれいおん・とかち・帯広大谷短期大学社会福祉科子ども福祉専攻（2022）第1回 十勝における乳幼児の子育てと生活に関する調査 結果報告書
- 帯広市「帯広市公立保育所の再編について（令和4年8月22日厚生委員会提出資料）」（https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/009/730/saihenminaoshi.pdf 2023年12月27日最終閲覧）
- 帯広市「帯広市公立保育所再編内容の見直しについて（令和5年2月15日厚生委員会提出資料）」
- 田中智子・丸山啓史・森田洋・保育料以外の負担を考える会（2018）隠れ保育料を考える— 子育ての社会化と保育の無償化のために かもがわ出版（https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/009/730/230215saihen.pdf 2023年12月27日最終閲覧）
- ヴィゴツキー・レオンチェフ・エリコニン著 神谷英司訳（1989）ごっこ遊びの世界 法政出版

川で2018年、釧路市で2021年から公立保育所の統廃合が実施されるなど、都市機能を持つ自治体においても保育所の統廃合が進められている。帯広市でも2034年度までに現在8施設ある公立保育所のうち5カ所を段階的に閉所や統合、民間移管し、最終的に計3施設を公立として存続させることが検討されている。ただし、その過程で、入所年齢を0～2歳までと変更を予定していたのを、保護者へのアンケート結果を受けて5歳までとする見直し案を2023年2月に決定した。変更の背景には、想定以上の3歳児以上の利用希望者が存在したことや、保護者が抱える子どもの転園への不安、きょうだいで同じ保育施設に通いたいという要望への配慮があった（帯広市、2022；2023）。実質的に保育所の数を減少させた施策であり、その是非については本稿の範囲を超える。ただ、保育所統廃合の動きのなか子どもの最善の利益を優先し、乳幼児が一貫した育ちの場を持つ権利をかりうじて保障した例といえる。